

地歴公民(地理) 一橋大学 (前期) 1/1

<全体分析>

試験時間 120 分

解答形式

論述式 10 問* (150 字×3, 125 字×5, 100 字×1, 25 字×1 計 1,200 字)

*うち 1 問は記述式 (解答数 1 個) を含む。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

教科書だけでなく、一步踏み込んで新書や新聞などにも注意しないと解答の方向性が見いだせないような話題からの出題が今年度も見られた。

また、課題文を読ませたり資料 (図表など) を読み取らせたりする出題形式も例年通りである。ただ、昨年度 7 点に増加した資料 (図 4 点, 表 3 点) が, 今年度は 4 点 (図 2 点, 表 2 点) に減少している。近年は, 課題文は短くなり資料は少なくなる傾向にある。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述式	オランダ養豚業の変遷	問 1 設問の細かな指示に従って論じればよい。問 2 国内での環境問題は集約的経営から考えよう。国外の問題である感染症は気づきにくい。問 3 図の下にある注釈の「子取り経営」に注目したい。	標準
II	論述式	交通手段と都市景観	問 1 歩道の狭さや段差から理由を考えよう。問 2 歩くことと自動車の速度の違いがポイントである。問 3 課題文をしっかりと読み込んで高得点に結び付けたい。問 4 表に従って細かく両都市を比較すればよい。	やや難
III	記述式 論述式	人の移動と資金の移動	問 1 民間資金や ODA はさまざまな条件が付くが, 送金は必要な人や地域に直接届くことがポイントである。問 3 近年は技能実習制度を利用してベトナムからの移民が増えている。比較で選ぶ国はどこでもよいが, ブラジルが書きやすい。	やや易

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 近年は高校地理で学習する知識で対応できる問題が増えているが、自身で課題を想定し、それを解決するような力を身につけておくこと。また、難解な文章が多いので、正しく読み取る訓練をしておこう。
- 地域では、東～南アジアやラテンアメリカを中心とする発展途上地域が、分野では、農業、鉱工業、貿易や交通・通信、観光関係が、一橋大学入試の頻出テーマである。
- 100 字～150 字の論述練習を積むとともに、今年度は出題されなかったが 200 字以上の論述の訓練も行っておくこと。文章作成能力も重要であり添削指導を受けることが望ましい。
- 統計資料を判定する訓練を行うとともに、資料の中から「ポイントとなる部分」を早く見抜く能力を養っておこう。また、統計と地図を結びつけて体系的に捉える練習をするとよい。
- 歴史教科書や新書などを利用して、一橋大学入試でよく問われる近代の史実も学習しておくことよい。また、白書・新聞などを活用し、新しいテーマや話題についても理解を深めておこう。